



ゆることのベースになります。ただ、子どもの気持ちの発達は、目で見ることではできません。しかし、「聞くこと」「話すこと」は、人とかかわる力や、人を思いやる心を育てていく基本になります。乳幼児期に一番大事なことは、気持ちのこもった言葉をたくさん聞く経験、そして自分の気持ちを何とか自分の言葉で相手に伝えようとする経験です。だから、この時期に子どもに絵本をたくさん読んであげてください。《中略》

いじめ・引きこもり、心が痛むような青少年の事件を聞くたびに、何とかならなかつたのかという思いでいっぱいになることがあります。いじめに遇って命を絶つてしまった子どもの遺書を見ると、共通して「生きてたつてしようがないんです。」という言葉を残しています。自信を失って、生きている価値がないような存在に

思えて、何だか自分がとてもちっぽけで醜く、悲しくなった末に命を絶つてしまう。そういう子どもたちに、生きていていいんだよ、失敗しても、挫折しても、あなたは世界の中でたった一人しかいない、かけがえのない人なんだよと伝えることが大事です。それを伝えられるのは、小さい時にその子を包んであげられるお父さん、お母さん、周りの子育てにかかわる大人なのです。いい気持ちになれるような笑顔向け、温かい声で気持ちのこもった言葉を、たくさん聞かせてあげて伝えてください。



**意見いろいろ紹介**  
**利用者アンケートから**  
9月に行いました利用者アンケートでは、様々な意見をいただきました。そのうちのいくつかをご紹介します。と思います。

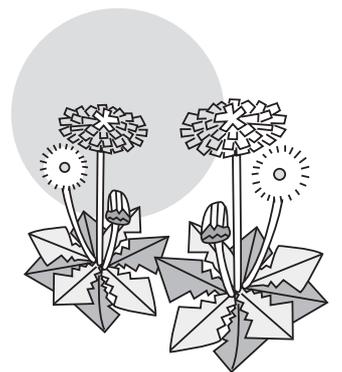
要望の多かった意見としては、『資料の充実』『開館時間や日時の拡大』『Webや館内OPACの検索予約の充実』についてでした。

『資料の充実』の中でも、「CDの蔵書点数を増やしてほしい」「映像資料を入れてほしい」という意見が多くありました。貸出の回転率が一年一タイトル7.5回で、資料の中で一番貸出されていることになりました。所蔵点数の増加を望む声が多いことは当然といえます。そこで平成16年度は、CDの購入点数を例年の1.5倍にする予定でおります。

また、公共貸与権などで話題に上がっている新刊本の複本購入について、賛成・反対、様々な意見があり、すぐに結論の出ることはありませんが、関心の高さを感ずるとともに、選書のむずかしさを改めて実感しました。

『開館時間や日時の拡大』について

は、「夜間開館の拡大・延長」が一番多く、続いて「祝日の開館」「早朝開館の実施」といった全般的な開館の拡大を求める内容が中心でした。



広くゆったりとした閲覧スペースや椅子の増設、学習室の設置など施設への要望、メールや電話サービスへの意見、図書館への応援やお褒めのことばやお叱りなどもあり、多方面からの声を聞かせていただきました。

中央図書館が開館して30年が経過し初めて利用者アンケートを実施いたしました。みなさんの図書館への想いを聞くことができました。みなさんから寄せられた意見は、今後の図書館の計画を考えていく上で、とても貴重なものであり、感謝しております。

生活に密着した身近な施設として、年齢を超え、永くご利用いただける図書館のサービスを提供していきたい。よう、前進していきたいと思っております。

ハンディキャップサービ  
「利用者交流会」開催



2月29日(日)の午後、西東京市図書館になって初めてのハンディキャップサービ「利用者交流会」が総合福祉センターで開かれました。

日頃、図書館からのサービスを利用されている主に視覚障害をお持ちの方々19名をお招きして、41名の「西東京市図書館音訳の会」の音訳者の方々と図書館職員が集まり、利用されている感想などをお聞きしようと企画したものです。

旧田無市、保谷市時代にも、ボランティアグループの主催でスポーツ交流会や茶話会など、利用者をお招きして懇親交流会を開催していました

が、図書館が主催の交流会は今回が初めてでした。

利用者の皆さんへあらかじめ手紙を差し上げ、電話でのお誘い、足回りとしての「けやき号」の確保、図書館車も2台運転転して、皆さんを会場までご案内いたしました。また、音訳者の方にも協力いただき、10名の実行委員会を組織して、交流会の内容及び進行について相談して準備を進め、利用者の方の誘導の仕方や接し方なども勉強して望みました。

当日は天候にも恵まれ、広報テープや録音図書、対面朗読などのサービスの中身について、日頃お感じになっていることや、忌憚のない意見をグループ単位でお聞きし、それぞれの内容を報告しあい、最後に全員で参加できる簡単なゲームを楽しみました。

一本のテープは3、4人で細々と作られているものと思われていた方や、日頃の感謝の気持ちをからだと言葉で表現された方。いつも音訳者の方のテープの声しか聞いたことがなかったもので、直接会って生の声を聞くことができよかったですという感想や、一年に2、3回はこういう会を開いてほしい、グループごとでなく一同輪になっていろいろな人の声が聞きたかったというご要望。また、会場が狭く隣の声しか聞き取れないというお叱りの声もいただきましたが、利用者の方も音訳者の方も図書館の

職員も、大変有意義な時間を持つことができました。

送迎の時間を考慮すると、2時間半という本場に短い時間でしたが、外出不足気味の皆さんも満足して帰られたように思いました。

テープ製作や対面朗読を通して、利用者の皆さんの目の代わりを務めているつもりでも、まだまだ不勉強なことを痛感させられた一日でした。

この交流会での意見を参考にして、利用者の方への聞きやすいテープ作り、より早い情報や資料の提供など、音訳者の方々と共に、ハンディキャップサービスの充実に努力していきたいと思えます。

また、次の交流会を別の視点も含めて計画したいと思えます。



テーマ展示を  
始めました。



芝久保図書館では、2月14日のバレンタインデーにちなんで、「チョコレートの本」の展示をしました。一般図書と児童書を含めた展示です。チョコレート作り方や、チョコレートにまつわる歴史の本、絵本、物語、意外に多い「バレンタインデー」という小説など、120冊ほど西東京市図書館全館から集められました。2週間ほどの展示期間でしたが、40冊ほどが貸し出されました。

今展示しているテーマは「さくらの本」です。さくらの名所案内や、さくらの写真集、さくらもちの作り方、絵本、小説まで、80冊ほどの本を3月28日まで展示しています。

今後、不定期ですが、面白いテーマ、時季に合ったテーマ展示を考えたいです。是非ご利用ください。